

平成 25 年 5 月 14 日

会社名 株式会社アールテック・ウエノ

問合せ先 ビジネスマネジメント部長 中村 宏司

電話番号 03-3596-8011

## 平成 25 年 3 月期の業績に関するお知らせ

本日、当社は平成 25 年 3 月期の決算短信を発表しましたのでお知らせします。  
当期における主な内容は以下の通りです。

### 【前期比較と計画達成率】

(単位：百万円)

	2012 年 3 月期 (前期実績)	2013 年 3 月期 (当期実績)	2013 年 3 月期 (通期計画)	対前年		計画達成率
				増減額	増減比	
売上高	4,053	4,552	4,594	499	12.3%	99.1%
レスキュラ®点眼液	1,943	1,811	1,881	△131	△6.8%	96.3%
AMITIZA®カプセル	2,026	2,592	2,562	566	27.9%	101.2%
研究開発支援サービス	83	148	150	65	78.7%	98.6%
売上総利益	2,728	2,849	2,743	120	4.4%	103.8%
研究開発費	917	1,279	1,185	362	39.5%	107.9%
営業利益	1,063	784	797	△278	△26.2%	98.3%
経常利益	1,073	890	851	△182	△17.0%	104.6%
当期利益	680	561	530	△118	△17.4%	105.9%

### 【四半期実績推移】

(単位：百万円)

	平成 25 年 3 月 第 1 四半期	平成 25 年 3 月 第 2 四半期	平成 25 年 3 月 第 3 四半期	平成 25 年 3 月 第 4 四半期	合 計
売上高	739	1,093	1,205	1,513	4,552
レスキュラ®点眼液	237	419	267	887	1,811
AMITIZA®カプセル	495	585	914	596	2,592
研究開発支援サービス	6	88	23	29	148
売上総利益	453	708	718	969	2,849
研究開発費	277	206	339	455	1,279
営業利益	6	300	165	312	784
経常利益	4	297	220	367	890
当期純利益	5	205	139	211	561

## 経営成績について

・当事業年度の売上高は、北米向けレスキュラの初期出荷や日本向け AMITIZA®カプセルの販売が好調に推移したこと等により、4,552 百万円（前期比 12.3%増）となりました。

利益面におきましては、前期と比べ増収となったものの、ロイヤリティー収入の減少に伴う売上総利益率の低下（前期と比べ 4.8 ポイント減）及び網膜色素変性治療薬（当社開発コード：UF-021）の第 3 相臨床試験開始等に伴う研究開発費の増加（前期比 39.5%増）により、営業利益は 784 百万円（同 26.2%減）となりました。

また、昨今の円安に伴い 93 百万円の為替差益が発生したため、経常利益は 890 百万円（同 17.0%減）、当期純利益は 561 百万円（同 17.4%減）となりました。

## 財政状態について

・当事業年度末の資産合計は、9,919 百万円（前期比 6.3%増）となりました。これは主として前期と比べ 2013 年 3 月度の売掛金が増加したことにより 469 百万円から 1,157 百万円（同 146.8%増）となったことによるものです。

負債合計は、1,728 百万円（同 40.0%増）となりました。これは主として網膜色素変性の治験開始に伴う支払増加等に伴い、未払金が 242 百万円から 379 百万円（同 56.6%増）となったことによるものです。

純資産合計は、8,191 百万円（同 1.2%増）となりました。これは主として自己株式の消却により資本剰余金が 188 百万円減少したものの、利益剰余金が 266 百万円増加したことによるものです。

## 経営に関する情報（平成 24 年 4 月 1 日から現在まで）

・平成 24 年 4 月 24 日、睫毛貧毛症治療薬として開発中の RK-023 について、第 1 相臨床試験が完了し、眼圧下降や充血などの眼科的所見も認められず、薬物動態の結果からも RK-023 の安全性上の問題は少ないことが判明しました。

・平成 24 年 5 月 21 日、当社従業員に対し、株式報酬型ストック・オプションとして新株予約権を発行することについて平成 24 年 6 月 22 日開催の当社定時株主総会に付議することを発表いたしました。

・平成 24 年 7 月 6 日、武田薬品工業との仲裁申立ての結果が判明し、武田薬品及びスキャンポ社と締結した AMITIZA®カプセルの独占的供給契約（Supply Agreement）は継続することとなり、損害賠償も認められなかったことを発表いたしました。

・平成 24 年 7 月 9 日、スキャンポ社が日本において慢性便秘症（器質的疾患による便秘を除く）治療薬として AMITIZA®カプセルの製造販売承認を取得したことを発表いたしました。

・平成 24 年 7 月 12 日、当社の化合物であるイソプロピルウノプロストンのドラッグデリバリーシステムを開発するため、国立大学法人東北大学と共同研究を実施することを発表いたしました。

・平成 24 年 7 月 19 日、当社取締役と従業員に対して株式報酬型ストック・オプションとして新株予約権を発行することを発表いたしました。

・平成 24 年 7 月 31 日、スキャンポ社は、米国食品医薬品局（FDA）に対してルビプロストン（米国製品名：AMITIZA®カプセル）の非癌性疼痛患者を対象としたオピオイド誘発性腸機能障害（OBD）治療薬を新たな適応として追加新薬申請（sNDA）を行ったと発表いたしました。

・平成 24 年 9 月 19 日、スキャンポ社は英国において慢性特発性便秘症治療薬としてルビプロストン（米国製品名：AMITIZA®カプセル）の製造販売承認を取得したことを発表いたしました。

・平成 24 年 11 月 12 日、機動的な資本政策の実行及び株主への還元を目的とした自己株式の取得（上限 2,000 株、総額 3 億円）を発表いたしました。

・平成 24 年 11 月 29 日、スキャンポ社とアボットジャパンが日本において慢性便秘症（器質的疾患による便秘を除く）治療薬として AMITIZA®カプセルの販売を開始したことを発表いたしました。

・平成 24 年 12 月 12 日、平成 24 年 11 月 12 日に発表した自己株式の取得が終了したことを発表いたしました。

・平成 24 年 12 月 19 日、スキャンポ社は米国食品医薬品局（FDA）からレスキュラ®点眼液の添付文書について追加新薬承認申請の承認を受けたことを発表いたしました。

・平成 25 年 2 月 1 日、当社は、網膜色素変性（開発コード：UF-021）の開発について、科学技術振興機構（JST）から A-STEP として採択されたことを発表いたしました。

・平成 25 年 2 月 8 日、スキャンポ社は、当社、Sucampo AG、及び武田薬品工業株式会社とその関連会社と共に、AMITIZA®カプセル（一般名：ルビプロストン）の後発品を販売するために米国食品医薬品局（FDA）に後発品申請（ANDA）を行った Anchen Pharmaceuticals, Inc.（以下、Anchen 社）とその関連会社に対し、特許侵害訴訟を提起したことを発表しました。

・平成 25 年 2 月 21 日、スキャンポ社は、米国においてレスキュラ®点眼液を上市したことを発表いたしました。

・平成 25 年 3 月 13 日、網膜色素変性に対するウノプロストン（開発コード UF-021）点眼液の第 3 相臨床試験の症例登録を開始したことを発表しました。

・平成 25 年 3 月 21 日、当社が保有する自己株式 2,000 株を平成 25 年 3 月 29 日に消却することを発表しました。

・平成 25 年 4 月 26 日、重症ドライアイに対する遺伝子組換え人血清アルブミン（開発コード RU-101）点眼液の新薬臨床試験開始（IND）申請が FDA より承認されたことを発表しました。

・平成 25 年 4 月 30 日、スキャンポ社はルビプロストンが非癌性疼痛患者を対象としたオピオイド誘発性腸機能障害（OBD）治療薬として FDA から承認されたことを発表しました。

本日、平成 25 年 3 月期決算短信について、経営陣を代表して当社代表取締役社長 眞島行彦は、以下のコメントを発表しました。

「本日、平成 25 年 3 月期決算短信を発表しました。業績については平成 25 年 2 月 12 日に公表した業績予想どおりに着地しております。売上高は、米国におけるレスキュラ®点眼液及び日本における AMITIZA®カプセルの販売が開始されたことに加え、既存の米国向け AMITIZA®カプセルも堅調に推移したため、前期より 499 百万円増の 4,552 百万円（前期比 12.3%増）となりました。経常利益については、研究開発費が前期より 397 百万円増の 1,279 百万円（前期比 39.5%増）となったこと等により、178 百万円減の 895 百万円（前期比 16.6%減）となりました。

来期の業績については、AMITIZA®カプセルが米国においてオピオイド誘発性便秘症治療薬として承認されたことに加え、日本での販売が堅調なことから増収を見込んでおります。研究開発費については、網膜色素変性の第 3 相臨床試験、ドライアイの第 1・2 相臨床試験が本格的に始まりますが、その他の開発パイプラインとのバランスを取りながら進めるため、当期と同程度の研究開発費を見込んでおります。以上の理由により、来期は増収増益になる見込みで、配当金についても 1 株当たり 20 円（分割前換算で 4,000 円で増配）を予定しております。

また、当社は 2015 年度までに ROE（自己資本利益率）を 10%以上にすることを中期経営目標に掲げました。既存の売上に加え、今後は日本における AMITIZA®カプセルの売上、米国において新たに承認されたオピオイド誘発性便秘症の AMITIZA®カプセルの売上等により増収増益トレンドになると予想しております。今後 3 年間は主にレスキュラ®点眼液と AMITIZA®カプセルの増収分で中期経営計画の達成を目指します。将来的に網膜色素変性治療薬の上市、ドライアイのライセンスアウトが実現すれば、企業価値をより高めていくことに寄与すると考えております。今後も安定的に既存製品を供給しつつ、アンメットメディカルニーズ対応やオーファンドラッグを開発し、社会に貢献していきたいと考えております。」

以 上